

にがうり

—— 発病・加害時期
 === 発病・加害最盛期

作型・病害虫名	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
普通					▲ 定植								
斑点病													
うどんこ病													
炭そと病													
アブラムシ類													
ハダニ類													
ミナミキイロアザミウマ													
ウリノメイガ(ワタヘリクノメイガ*)													
フキノメイガ(アズキノメイガ)													
ヨトウムシ類													
オオタバコガ													

斑点病

留意事項

- 1 多湿条件下で発生が多い。

防除方法

- 1 排水を良好にし、過湿を避ける。
- 2 被害茎葉を早めに除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。
- 3 窒素質肥料の過用を避ける。
- 4 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [トップジンM水和剤](#) 1 【1,500~2,000倍 前日/5回】
 - ・ [ダコニール1000](#) M5 【1,000倍 前日/4回】
 - ・ [スミブレインド水和剤](#) 2 10 【2,000倍 7日/2回】

うどんこ病

留意事項

- 1 高温乾燥時に発病しやすい。また、生育後半に発病しやすい。
- 2 薬剤耐性菌が出現しやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
- 3 トリフミン水和剤とパンチョTF顆粒水和剤は、同一成分トリフルミゾールを含み、総使用回数は合計3回以内。
- 4 アミスター20フロアブルは、浸透性を高める展着剤を加用しない（薬害）。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

QoI剤（**1 1**）、SDHI剤（**7**）は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

防除方法

- 1 窒素質肥料の多用、肥効切れを避ける。
- 2 被害葉を早めに除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。
- 3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [ジーファイン水和剤](#) **M 1** **N C** 【野菜類（除なす） 750～1,000倍 前日／－】
 - ・ [ダコニール1000](#) **M 5** 【1,000倍 前日／4回】
 - ・ [トリフミン水和剤](#) **3** 【3,000倍 前日／3回】
 - ・ [パンチョTF顆粒水和剤](#) **3** **U 6** 【2,000倍 前日／2回】
 - ・ [アミスター20フロアブル](#) **1 1** 【2,000倍 7日／3回】
 - ・ [アフェットフロアブル](#) **7** 【2,000倍 前日／3回】
 - ・ [パレード20フロアブル](#) **7** 【2,000～4,000倍 前日／3回】

炭そ病

留意事項

- 1 アミスター20フロアブルは、浸透性を高める展着剤を加用しない（薬害）。
QoI剤（**1 1**）は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

防除方法

- 1 連作を避ける。
- 2 排水を良好にする。
- 3 わらまたはポリフィルムなどでマルチングする。
- 4 窒素質肥料の過用を避ける。
- 5 支柱についている古い葉や、巻きひげが発生源になることもあるので除去する。
- 6 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [アミスター20フロアブル](#) **1 1** 【2,000倍 7日／3回】
 - ・ [トップジンM水和剤](#) **1** 【1,500～2,000倍 前日／5回】
 - ・ [ダコニール1000](#) **M 5** 【1,000倍 前日／4回】

べと病

留意事項

- 1 高温、多湿を好み、露地栽培では雨が続くと多発する。
- 2 アミスター20フロアブル、ストロビーフロアブルは、浸透性を高める展着剤を加用しない（薬害）。QoI剤（**1 1**）は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

防除方法

- 1 排水を良好にし、加湿を避ける。
- 2 被害茎葉を早めに除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。
- 3 肥効切れしないように肥培管理に注意する。
- 4 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [アミスター20フロアブル](#) 1 1 【2,000倍 7日／3回】
 - ・ [ストロビーフロアブル](#) 1 1 【3,000倍 7日／3回】
 - ・ [ダコニール1000](#) M 5 【1,000倍 前日／4回】

アブラムシ類

留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

- 1 露地栽培では、シルバーポリフィルムでマルチングする。
- 2 施設では、開口部に寒冷しゃを張り、侵入を防止する。
- 3 下記の薬剤を施用する。
 - ・ [ダントツ粒剤](#) 4 A 【1～2 g／株 植穴処理土壌混和 定植時／1回】
- 4 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [ダントツ水溶剤](#) 4 A 【2,000～4,000倍 前日／3回】
 - ・ [モスピラン顆粒水溶剤](#) 劇 4 A 【4,000倍 前日／3回】
 - ・ [トレボン乳剤](#) 3 A 【1,000倍 前日／3回】
 - ・ [コルト顆粒水和剤](#) 9 B 【4,000倍 前日／3回】
 - ・ [マラソン乳剤](#) 1 B 【1,000倍 前日／3回】

ハダニ類

留意事項

- 1 高温時に発生が多い。

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [ニッソラン水和剤](#) 1 0 A 【2,000～3,000倍 前日／2回】
 - ・ [ダニトロンフロアブル](#) 2 1 A 【2,000倍 3日／1回】
 - ・ [サンヨール](#) — 【500倍 前日／4回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

ミナミキイロアザミウマ

留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

- 1 ほ場周辺の除草を行う。
- 2 うね面をポリフィルム等でマルチングし、土中で蛹化するのを防ぐ。
- 3 発生を認めたら下記の薬剤を施用する。
 - ・ [ダントツ水溶剤](#) 4 A 【2,000～4,000倍 前日／3回】
 - ・ [コテツフロアブル](#) 劇 1 3 【2,000倍 前日／2回】
 - ・ [カスケード乳剤](#) 1 5 【アザミウマ類 2,000～4,000倍 前日／4回】
 - ・ [ハチハチ乳剤](#) 劇 2 1 A 【アザミウマ類 1,000倍 前日／2回】

ウリノメイガ（ワタヘリクロノメイガ）

留意事項

- 1 幼虫は葉をつづり合わせ、その中で食害する。

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [トレボン乳剤](#) 3 A 【1,000倍 前日／3回】
 - ・ [カスケード乳剤](#) 1 5 【2,000～4,000倍 前日／4回】
 - ・ [フェニックス顆粒水和剤](#) 2 8 【2,000～4,000倍 前日／3回】
 - ・ [BT剤](#) 1 1 A （Ⅸ野菜類の病害虫防除 3野菜類 参照）

フキノメイガ（アズキノメイガ）

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [アディオン乳剤](#) 3 A 【2,000～3,000倍 前日／3回】

ヨトウムシ類

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [プレオフロアブル](#) UN 【ハスモンヨトウ 1,000倍 前日／2回】
 - ・ [トレボン乳剤](#) 3 A 【1,000倍 前日／3回】
 - ・ [アディオン乳剤](#) 3 A 【2,000～3,000倍 前日／3回】
 - ・ [フェニックス顆粒水和剤](#) 2 8 【ハスモンヨトウ 2,000～4,000倍 前日／3回】
 - ・ [BT剤](#) 1 1 A （Ⅸ野菜類の病害虫防除 3野菜類 参照）

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

オオタバコガ

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [アファーム乳剤](#) 6 【2,000倍 3日／2回】
 - ・ B T 剤 1 1 A (IX野菜類の病害虫防除 3野菜類 参照)

ネコブセンチュウ

防除方法

- 1 下記の薬剤を施用する。
 - ・ [バスアミド微粒剤](#) 劇、[ガスタード微粒剤](#) 劇 8 F
【20～30kg／10a 均一に散布して土壌と混和 は種または定植21日前／1回】
 - ・ [ネマトリンエース粒剤](#) 1 B
【15～20kg／10a 全面土壌混和 は種前または定植前／1回】
 - ・ [ネマキック粒剤](#) 1 B
【20kg／10a 全面土壌混和 定植前／1回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。